

医薬品情報データベースの統合的活用に関する研究
～処方支援システムの開発及びその臨床利用～

柴崎 光太郎¹、鈴木 聡子¹、小林 江梨子²、櫻田 大也²、佐藤 信範³、上田 志朗²

¹データインデックス株式会社、²千葉大学大学院 薬学研究院 医薬品情報学、³千葉大学大学院 薬学研究院 臨床教育学

【目的】処方箋の疑義照会時における医師への代替薬の提案や、薬を先発品から後発品に切り替える場合など、適正な医薬品の選択を迅速かつ正確に行うことが薬剤師に求められている。一方後発品には、品質に対する信頼性、正確で迅速な情報提供、製品の安定供給等の問題があり、その品質を左右するものとして製品を構成する添加物の違いも大きく関与していると思われる。これまで臨床における処方支援を目的として、同種同効薬及び医薬品の添加物情報をデータベース化し、同種同効薬検索システム及び添加物検索システムの開発研究を行ってきたが、システムの有用性の評価を行うために、システムを医療機関に配布し調査を実施した。

【方法】同種同効薬検索システムについては 12 施設 14 人、添加物検索システムについては 12 施設 17 人の、調剤薬局及び病院の薬剤師を対象に、調査票を用いて、従来用いていた検索ツールと本システムとの比較調査を行った。評価は、検索時間 使い易さ 有用性 に関する項目について、本システムの初回使用時、使用 1 週間後、使用 1 ヶ月後の評価の経時的推移に関して調査した。

【結果・考察】使用 1 ヶ月後において、同種同効薬検索システムについては、検索時間は 71%、使い易さは 57%、有用性は 86%の割合で、従来用いていた検索ツールより本システムの方が優れているとの評価を得ることができた。また、添加物検索システムについては、検索時間は 53%、使い易さは 53%、有用性は 82%の割合で、従来のツールより本システムの方が優れているとの結果を得た。これらの結果から、開発した 2 つのシステムは、臨床において詳細な情報を高い網羅性で即時に検索できるという有用性が実証された。従って、これらのシステムは処方支援のための医薬品情報検索において、多大なる貢献が期待できるものと考えられる。